

指導上の参考事項

「土地利用型野菜作における雇用管理の要点」

農試経営部

1 背景

多くの投下労働時間必要とする園芸作物では家族労働力を補完する雇用導入が規模拡大の有効な手段となっている。

県北の野菜地帯においても主婦等の雇用労力が土地利用型野菜生産を支えている事例が多いが、総体的に劣る就業条件とも相俟って雇用固定化はもとより新規の発掘も困難な状況にあり定着度をより高める雇用管理が望まれる。

このため、土地利用型野菜作経営の雇用管理実態から雇用管理のあり方を明らかにしたので指導上の参考に供する。

2 技術の内容

想定する経営、雇用形態は次のとおりであるが、悪天候下での圃場作業、重量物運搬と作業者の身体に辛い作業が多い一方で、被雇用者の「ゆとりある職場」との受け止めもあるので、安全良品質野菜の生産、地域農業振興への貢献との共感のできる経営理念をアピールしつつ、「管理より協調」で快く働いてもらう環境づくりが重要。

経営形態：家族労力を上回る雇用労力を導入している家族経営。品目作型は夏秋期のレタス・大根・キャベツ等を基幹に秋冬期には長いもの冬掘り冬春期出荷作型

雇用形態：近傍居住者の一定期間継続雇用（季節常雇）

(1) 被雇用者の要望に応じ得る条件整備

就業期間の長期化が雇用の安定的確保のキポイントとなり、又勤務時間の弾力化が雇用機会選択の幅を広げる。特に余裕時間活用重視の主婦層の取り込みには必ずしも賃金のみではない就業条件の整備が必要。

就業期間の延長	県内露地栽培で通常可能な夏秋期5～10月の6ヵ月を確保し、その前後の延長で8ヵ月以上を目標に期間延長
勤務時間の弾力化	①始業終業の改善で時間短縮。例示勤務時間 9～16時 ②パートタイム制導入
熟練者の優遇	①勤務年数に応じたボーナス支給の制度化 ②経営主の補佐としての待遇

(2) 被雇用者と連携のとした作業実施

経営者意識を振りかざすのではなく、経営のパートナーたらしめるよう理解と協力を得る。

作業ポイントの明示による 確実な作業の促進	基礎技術や判断を要する作業解説した作業マニュアルなどによりポイントを明示、作業精度を向上させる。
市況情報等の提供による 主体的な作業の促進	ミーティング週1回開催するなど市況動向、販売計画、作業計画の理解に基づく円滑な作業をはかる。
能力に応じた作業の促進	種々の作業があり分担により未熟練・高齢者も活用する。

(3) 人間関係に配慮した職場づくり

辞める理由として、より有利な職への転職の次に被雇用者間の不満不信があるので人間関係への配慮が必要。

公平な応接	不満不信の未然の防止等良好な人間関係醸成
能率に応じた賃金	軽作業のみの従事者を上回る全作業従事者の賃金
改善提案の受入	作業能率向上等の被雇用者から提案の制度化

(4) 欠かせない経営側女性の細やかな配慮

被雇用者に女性が多いことから意思疎通他で経営主の妻(母)の役割が重要。

連絡伝達の窓口	出欠勤の事前の確認、その他連絡伝達、相談
職場環境の刷新	休憩所・トイレの清潔完備

(5) 被雇用者とのギブアンドテイク

農作業を受託し、雇用出役しやすくするなど被雇用者とのギブアンドテイクの関係を強める。

機械作業の受託	冬春期に機械農作業を受託して被雇用者の農業安定化とともに、いわゆる結い関係の付加
---------	------------------------------------------

3 指導上の留意事項

一定水準の賃金のもとより、雇用保険(失業給付)・健康保険・老齢年金の加入が望ましいが各種保障・福利厚生等は取り上げていない。なお労働災害保険は低額の掛金(賃金総額の0.9%雇用主負担)で療養費、休業補償が可能であるので加入に努めること。

4 当該事項にかかる試験課題名

北東北園芸産地における農業労働力の確保・利用調整システムの確立

5 参考文献・資料

東北地域の園芸産地における労働力不足とその対応(1993 東北農業試験場)
指導上参考事項「農業協同組合による農業労働力確保調整の一方策」(1993岩手農試)